

JBA公認コーチライセンス制度の 改定について

2018年9月20日



1

内 容



1. 改定の趣旨及びポイント p.3
2. ライセンス制度の種類と役割 p.7
3. 主な改定内容
 - 1) E級コーチライセンスの内容 p.16
 - 2) 新設ライセンス p.21
 - 3) コーチデベロッパーについて p.24
 - 4) リフレッシュ研修について p.28
 - 5) A級～C級コーチライセンスの取得について p.30

2

1. 改定の趣旨及びポイント



コーチライセンス制度改定の趣旨



コーチライセンス制度の意義

コーチライセンス取得によってコーチとしての能力を一定程度保証し、プレーヤーにとって安心・安全な環境を構築すること。

コーチライセンス制度改定の趣旨

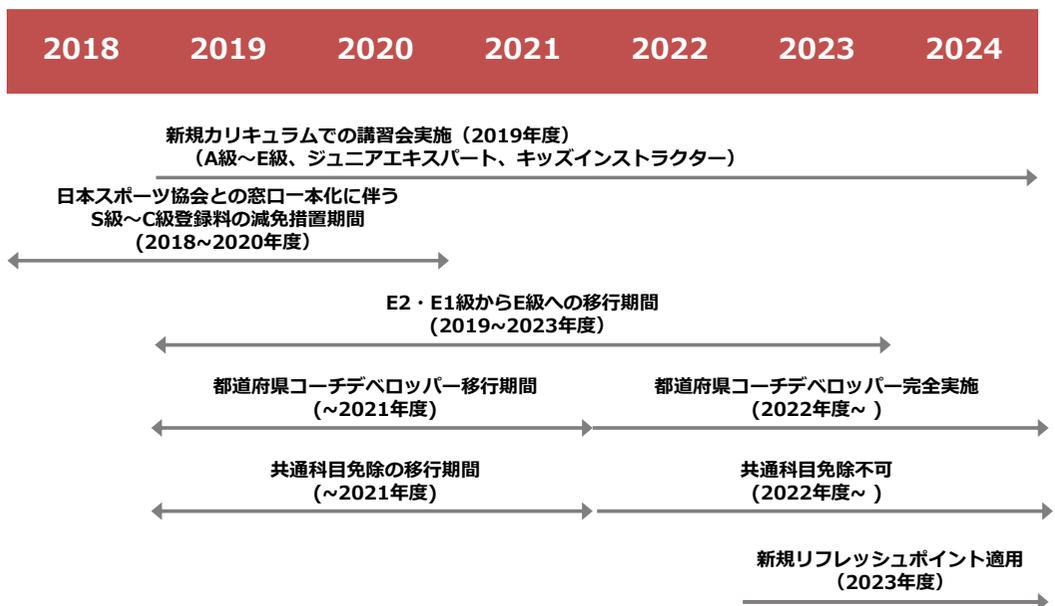
- コーチライセンス制度を推進し、プレーヤーにとってより安心・安全な環境を構築するにはライセンス取得の手続きを簡素化する必要があること。
- 現在、JBAでは育成センターの設置やリーグ戦の推進などユース世代の育成環境改善に取り組んでいるが、そういった状況に対応する指導者を養成する必要があること。
- 人口減少が進む中、競技人口を維持、増加させるにはスポーツの楽しさやバスケットボールの楽しさを伝えることができる指導者を養成する必要があること。
- JBAでは、2011年にライセンス区分を明確にし、A級からE級までの系統的なライセンス設定したが、2016年にS級ライセンスを新設したため、再度、S級からE級までの系統的・体系的なライセンス区分を設定する必要があること。
- 指導現場における様々な問題（暴力やハラスメントなど）をなくし、自立・自律したプレーヤーを育成するためには、知識を有するだけでなく、技術・戦術の指導力、そして、人間力を兼ね備えた指導者を養成する必要があること。また、そういった指導者を養成するコーチ育成者を養成する必要があること。
- 指導者が自己研鑽を積み重ね、プレーヤーやチーム、ステークホルダーのニーズに対応する事ができるためには、指導者が学び続ける環境を整備する必要があること。

制度改定によって予想される効果

- ▽競技者数の増加
- ▽コーチ登録者数の増加
- ▽自立・自律したプレーヤーの育成
- ▽プレーヤーにとってさらに安心・安全な環境の構築
- ▽コーチの行動変容（学び続けるコーチ）
- ▽海外で活躍するコーチの輩出

- | |
|--|
| <p>1. コーチライセンス区分を再設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓指導対象によって求められるコーチ行動や能力に合わせた
コーチライセンス区分、カリキュラム構成 ✓育成年代の強化・育成を目的としたコーチライセンス新設 ✓普及を目的としたコーチライセンス新設 ✓E-2級とE-1級を統合してE級を設置 |
| 2. E級講習会にeラーニング方式導入 |
| 3. E級のコーチライセンス登録有効期限を4年に変更 |
| 4. C級コーチ養成講習会集合講習の実施 |
| 5. 専門科目と共通科目の一体実施（C級以上） |
| 6. JBAとFIBAコーチライセンスとの整合性を検討 |
| 7. 主体性のある選手を育成するためのコーチデベロッパーの養成 |
| 8. リフレッシュ研修会の見直し |
| 9. 都道府県指導者養成委員会の整備 |

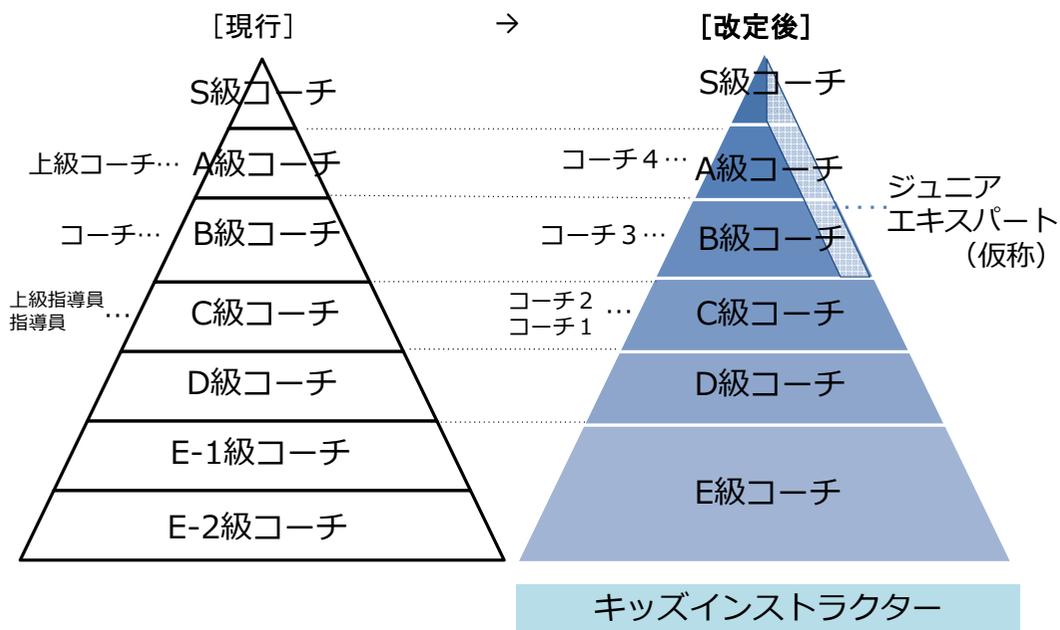
改定スケジュール



2. ライセンス制度の種類と役割

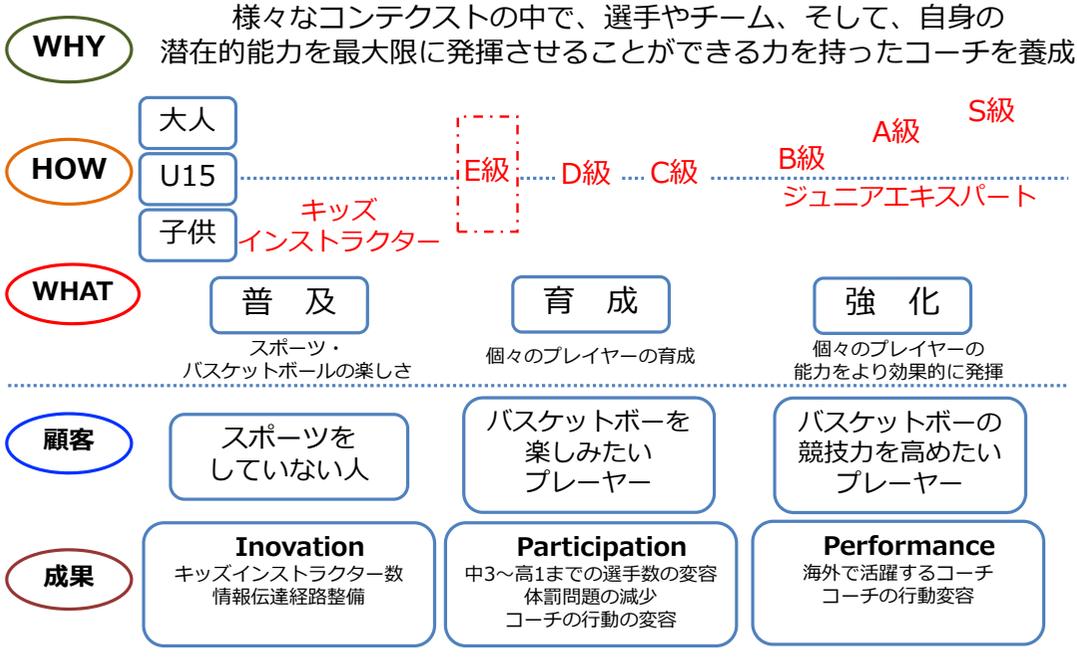


ライセンス区分の変更



※上級コーチ、コーチ、上級指導員、指導員、コーチ4・3・2・1は日本スポーツ協会指導者資格名称

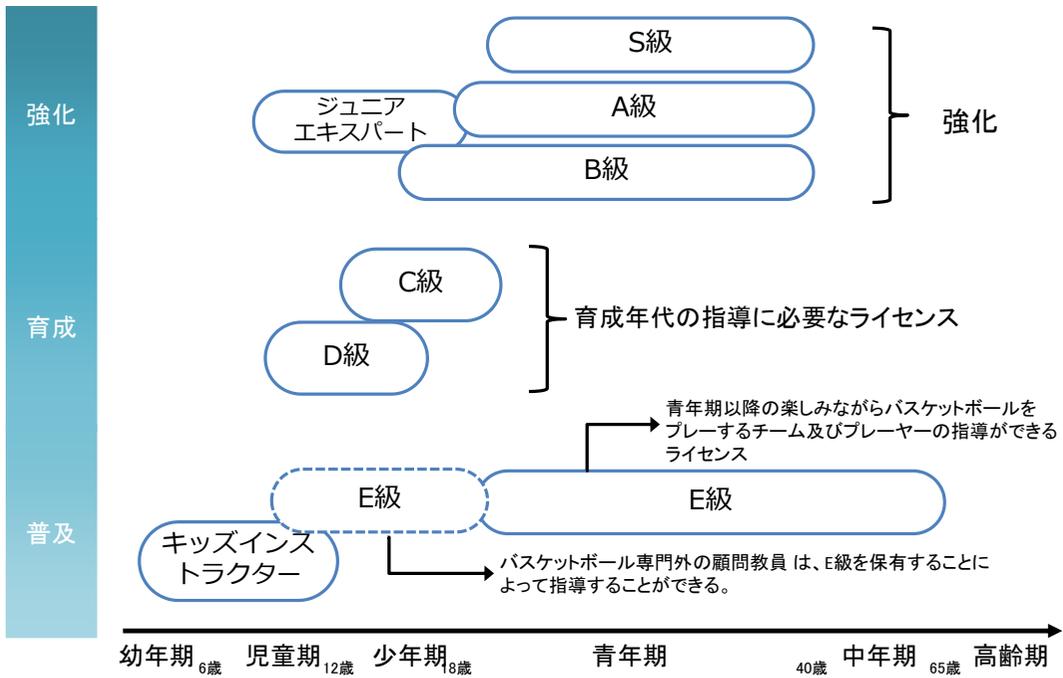
☆理想のコーチ像からにコーチライセンス区分を設定するとともに達成したい成果（普及・育成・強化）を設定



JBAが養成したい理想のコーチ像

様々なコンテキストの中で、選手やチーム、そして自身の潜在的な能力を最大限に発揮させることができる力を持ったコーチ。

- プレーヤーの**学び**を重視させることができる
- プレーヤーの**主体性**を創ることができる
- 教えるだけでなく (push)、より**引き出す (pull)** ことができる
- プレーヤーの理解、**自分自身の理解**が深い
- **コミュニケーション力**が高い
- コンテキスト=状況、文脈、背景
 - 例) U12のコーチングに求められる成果とU18のコーチングに求められる成果は異なる
- 習熟度、発育・発達、プレーヤーのニーズ、チームのニーズ、ステークホルダーのニーズを理解し、それに合わせた指導を行う



ライセンス	年齢及び指導対象レベル、チーム区分	
S級	トップリーグ	青年期以降の楽しみながらバスケットボールをプレーするチーム及びプレーヤーの指導についてはE級を保有することで指導可能
A級	U22全国レベル	
B級	U16-U18全国レベル	中学校、高等学校の顧問教員（バスケットボール専門外）は、E級を保有するで指導可能
C級	U13-U15	
D級	U12	
ジュニアエキスパート	Bリーグユースチーム クラブチーム	
キッズインストラクター	U10	

ライセンス	指導対象	カリキュラム内容	達成したい成果
S級	Bリーグ、WJBL、国際レベルで活躍するための内容		強化
A級	全国レベルU22	チームづくり	強化
B級	全国レベルU16-U18	プレーヤーづくり	強化
C級	U13-U18	チームづくり中心	育成
D級	U10-16	プレーヤーづくり	育成
E級	コーチとしての最低限の行動 プレーヤーにとって安心・安全環境作り		普及、育成
ジュニアエキスパート	U12-U18	プレーヤーづくり	強化
キッズインストラクター	U10	運動の楽しさづくり	普及

コーチライセンス制度細目一覧

国内講習、海外研修、講習会講師	ライセンス別						キッズインストラクター	ジュニアエキスパート
	E級コーチ	D級コーチ	C級コーチ	B級コーチ	A級コーチ	S級コーチ		
集合講習8日程度								
集合講習5日程度								
集合講習3日程度								
集合講習2日程度								
eラーニング								
	E級コーチ	D級コーチ	C級コーチ	B級コーチ	A級コーチ	S級コーチ	キッズインストラクター	ジュニアエキスパート
日本スポーツ協会との運動	-	-	コーチ1	コーチ2	コーチ3	コーチ3	-	-
講習会開催団体	JBA	都道府県	都道府県	JBA	JBA	JBA	JBA	JBA
開催頻度(年)	随時	1回以上	1回以上	1回以上	1回以上	1回	1回以上	未定
講習時間	-	2日程度	3日程度	5日程度	8日程度	-	半日程度	未定
受講料	2,160円	12,960円	16,200円	43,200円	54,000円	270,000円	2,160円	86,400円
登録料/年(※1)	1,000円 ※初回事務手数料	3,000円	4,000円	5,000円	6,000円	12,500円	(受講料に含む)	S級~B級登録料 +5,000円
リフレッシュ研修	不要	必要					不要	必要
資格有効期間	4年間自動継続	1年					5年	1年
受講条件(※2)	16歳以上	E級保有者 18歳以上	D級保有者 18歳以上	C級保有者 22歳以上	B級保有者 22歳以上	A級保有者 22歳以上	16歳以上	B級以上保有者 22歳以上

※1 登録料の内、2割がPBA

※2 B級以上の受講条件の詳細は別途定める。

★2018年度から3年間は、コーチライセンスの登録・管理窓口の一本化に伴う移行措置としてJBA登録料（S級～C級）から日本スポーツ協会の登録料（年額2,500円）を差し引いた金額をJBAに納める。

	2018年度～2020年度 ★コーチライセンスの登録・管理窓口一本化 移行期間	2021年度～ ☆コーチライセンスの登録・管理窓口一本化 移行措置なし
S級	10,000円	12,500円
A級	3,500円	6,000円
B級	2,500円	5,000円
C級	1,500円	4,000円

ジュニアエキスパート登録料：S級～B級登録料＋5,000円

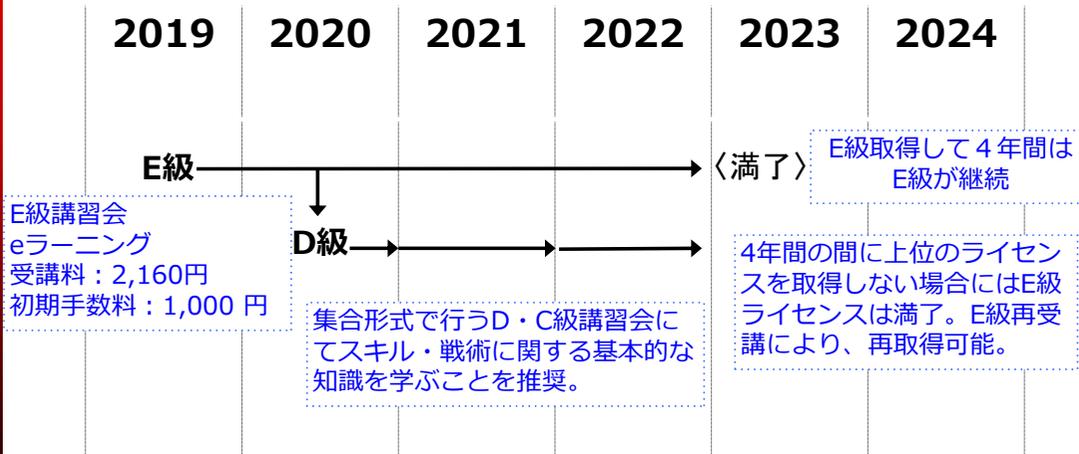
3. 主な改定内容

1) E級コーチライセンスの内容

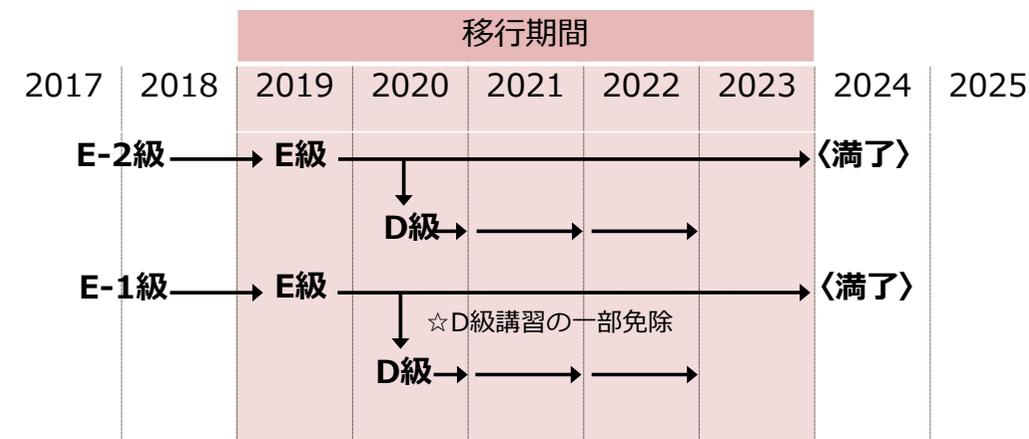
- 従来のE-2級、E-1級を再編成し、ライセンス取得の手続きを簡素化しつつ（eラーニング導入）普及およびコーチの入門という観点からコーチにとって必要最小限の内容を身に付けるものとしてE級を構成。
- それに伴い、D級、C級のカリキュラムも変更し、E級→D級→C級のカリキュラムを体系的に整備した。
- 育成年代（U12、U15、U18）のコーチングでは、無知による選手育成のブレーキをなくすために、E級をステップとしてD級、C級を取得することを推進。
- 学校部活動の顧問（バスケットボール専門外）や青年期以降のバスケットボールを楽しんでプレーヤーを指導するコーチについては、E級保有で指導可能。
- バスケットボールの技術・戦術、指導方法の変化に対応し、プレーヤーの安心・安全を確保するために資格有効期間・永年を撤廃。

目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 初めてコーチになったとしても最低限の行動がとれる能力を身につけること。 ● プレーヤーにとって安心・安全な環境を確保し、より効率的・効果的な指導ができるコーチを養成すること。
カリキュラム (案)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 日本バスケットボールの一貫指導 ➢ 指導のアウトライン ➢ 安全管理 ➢ コーチの役割と行動（シーズン前、シーズン中、ゲーム前・中・後、大会前後） ➢ バスケットボールの基本的な考え方と攻防の目的 ➢ 技術・戦術の指導 ➢ 倫理規定、行動規範、指導指針
指導する場面・ 状況	<ul style="list-style-type: none"> ● 青年期以降の楽しみながらバスケットボールをプレーするチーム及びプレーヤーの指導ができる。 ● 顧問教員は、E級を保有することによって指導することができる。

☆ E級を取得して4年間はE級を継続可能。4年間の間に上位ライセンスを取得しない場合にはE級コーチライセンスは満了。再度受講することによりE級再取得可能。



☆ E-2級とE-1級は、E級に移行。2018年度までに取得したE-1・E-2級コーチの有効期限は2023年度まで。
 ☆ 満了後、E級を取得するにはE級講習会を受講。再登録申請不可。
 ☆ E-1級からE級に移行したコーチが移行期間の間にD級を受講する場合には、D級講習会の一部を免除する。



3. 主な改定内容

2) 新設ライセンス



JBA公認ジュニアエキスパートの内容



<p>目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 育成センター、Bリーグユース、スクールに関わる指導者でプレーヤー個人の将来性を重視した育成・強化を行うことができる指導者を養成することを目的とする。
<p>カリキュラム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 育成年代の選抜された選手の「個」を育成する際に必要な内容 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 技術論（シュートの指導、ドリブル、パス、1on1〈エリア1・2・3〉、オンボールディフェンス、オフボールディフェンス、リバウンド） ▶ 戦術論（スペーシング、トランジション、ピック&ロール、ピック&ロール・ユーズアスキル、オフボールスクリーン、スクリーンディフェンス） ▶ ジュニア期のスポーツ特性 ▶ ドリルの組み立て方と考え方 ▶ 成長段階に基づくプログラム作成 ▶ スポーツ医学 ▶ 運動学 ▶ スクール経営論 ▶ 国際的な選手育成カリキュラム ▶ コーディネーション概論 ▶ スポーツパフォーマンス ▶ 発育発達と指導法 ▶ スポーツ栄養学 ▶ マネジメント ▶ スポーツ心理学 ▶ LTAD及び成長段階(PHVステージ)に基づく育成プログラム作成 ▶ アスリートパスウェイ ▶ アスリートパスウェイ ▶ アントラージュ（関係者）コミュニケーション ▶ プレゼンテーションスキル ▶ 指導と法律 ▶ 指導哲学 ▶ 成長と生活習慣
<p>指導対象とレベル</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● Bリーグユースチーム ● クラブチーム・スクール
<p>受講条件</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● B級以上保有 ● 22歳以上

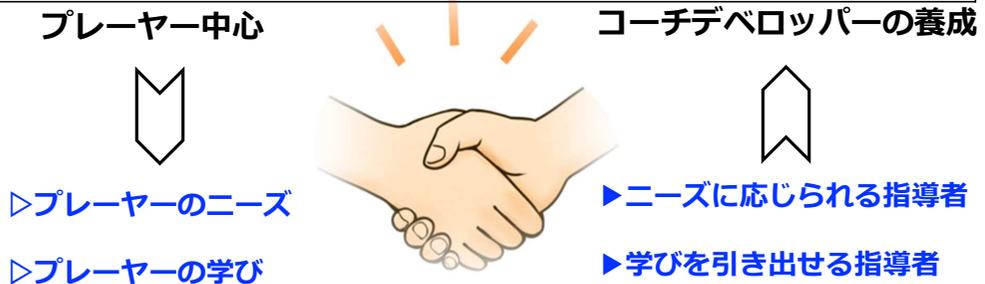
目的	<ul style="list-style-type: none">● 10歳以下の選手・子どもたちに関わる指導者・保護者で体を動かすことの楽しさを伝える指導者の養成を目的とする。
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none">● 子どもの発育発達を理解し、子どもたちを夢中にさせるメニューと 展開方法を伝達する。<ul style="list-style-type: none">▶ 子どもたちを夢中にさせるドリルの作成と展開▶ スムーズな練習進行を確保するための方法▶ 子どもの発育発達の理解▶ 楽しみながらバスケットボールを経験する方法と実際
指導する場面・状況	<ul style="list-style-type: none">● 幼稚園・保育所訪問での指導● 小学校でのゲストティーチャー

3. 主な改定内容

3) コーチデベロッパ

コーチデベロッパー

- 「プレイヤー中心」の指導をするには、プレイヤーのニーズを把握し、プレイヤーの学びを促進することができる指導者を養成することが必要。
- コーチデベロッパーは、知識伝達型・一方的な講習ではなく、受講生参加型・双方向的な講習をファシリテートし、「プレイヤー中心」の指導ができる指導者を養成する。
- 都道府県コーチデベロッパー講習会
D・C級講習会を担当する講師を養成
2018年11月17日（土）18日（日）開催



D級コーチ養成講習会スケジュール

	1日目	2日目
9:00	講義・演習 はじめに ゴール設定	講義・演習 一日目の振り返り、二日目目標設定 実技 キックアウト インサイドへのパス
10:00		
11:00	講義・演習 プレイヤーを中心にした指導	実技・演習 得点する技術 ・シヨットセクション ・スペースメイク（パス\$カット） ・ボールレシーブ
12:00	休憩	
		休憩
13:00	実技・演習 バスケットボールにつながる ウォームアップ	実技・演習 リバウンド
14:00		
15:00	実技・演習 得点する技術 ・キャッチ&シヨット ・オフドリブルシヨット	実技・演習 1on1 with ball
16:00	講義・演習 一日の振り返り	講義・演習 一日の振り返り
17:00		

	1日目	2日目	3日目
9:00	講義・演習 はじめに ゴール設定	講義・演習 1日目の振り返り、2日目目標設定 実技・演習 GROWモデルを用いた コーチング実践	講義・演習 2日目の振り返り、3日目目標設定 実技・演習 2メンゲーム
10:00	講義・演習 ゲームや練習の分析	実技・演習 スペーシングの基本 (合わせ) (シンプルなプログラム)	実技・演習 3メンゲーム
11:00			
12:00	休憩	休憩	休憩
13:00	講義・演習 ゲームコーチング	実技・演習 トランジションオフェンス	実技・演習 ディナイが強いチームに対する オフェンス
14:00	講義・演習 コンディショニング (フィジカル・メンタル)		
15:00	講義・演習 一日の振り返り	実技・演習 チームディフェンスの基本	講義・演習 エンディング
16:00		講義・演習 一日の振り返り	
17:00			

3. 主な改定内容

4) リフレッシュ研修について

☆ライセンス取得後も「学び続ける」ことを促進するために更新に必要なポイント数を引き上げ。また、上位ライセンスほど「普及」「育成」「強化」に関する広範囲の内容を学ぶ必要があることから、上位ライセンスほど必要ポイント数を高く設定。

現ライセンス区分		新ライセンス区分	
	必要ポイント		必要ポイント
S級コーチ	2ポイント	S級コーチ	8ポイント
A級コーチ	2ポイント	A級コーチ	8ポイント
—	—	ジュニア エキスパート	S級～B級の必要ポイント +別途研修を受講
B級コーチ	2ポイント	B級コーチ	6ポイント
C級コーチ	2ポイント	C級コーチ	4ポイント
D級コーチ	2ポイント	D級コーチ	2ポイント
E-1級コーチ	不要	E級コーチ	不要
E-2級コーチ	不要		
—	—	キッズインストラクター	不要

※ポイントの有効期限は4年間

※2023年度以降の登録更新時から上記ポイントが適用

29

3. 主な改定内容

5) A級～C級コーチライセンスの取得について

	現行	改定後
A級	A級専門科目受講＋共通科目Ⅳ受講	A級コーチ養成講習会受講
B級	B級専門科目受講＋共通科目Ⅱ・Ⅲ受講	B級コーチ養成講習会受講
C級	D級取得＋スポーツリーダー（共通科目Ⅰ）取得	C級コーチ養成講習会受講

- 改定後は共通科目、専門科目を一体的に実施するそれぞれのコーチ養成講習会を受講・修了することによって、A級～C級コーチライセンスが取得できる。
- 現行では、共通科目受講・修了について様々な免除措置があったが、改定後は共通科目、専門科目を一体的に実施するため、共通科目受講・修了に関する免除措置は行わない。
- ただし、2019年度から2021年度までの3年間については、制度改定の移行期間とし、一部共通科目受講・修了の免除措置を認める。（詳細な免除要件については精査中）